

図書館だより 第9号



新しい本が入りました！ ※別紙一覧表をご覧ください。

ビブリオバトルのチャンプ本決まる！！
(1学年 1月12日実施)



チャンプ本：『素敵な日本人』東野圭吾（光文社）

例年がない寒さが続きましたが、暦の上ではもうすぐ立春を迎えます。梅の花も少しずつですが咲きはじめました。3年生は、大学入試の真最中、くれぐれも体調管理には気をつけてください。応援メッセージボードにたくさんの励ましの声が届いています！！

図書館には、2月の新着図書が入りましたので、1・2年生も、ぜひ積極的に利用してください。

★ 3年生への受験応援
メッセージボード
(図書委員会製作)



1. 蔵書点検による閉館について

◆閉館期間：3月9日（水）～11日（金）

年1回図書館の全蔵書の所在を確認します。閉館しての作業となりますが、急ぎの時は、司書まで遠慮なくお尋ねください。

2. 3年生へのお願い

◆返却期限が過ぎている図書は、至急返却をお願いします。

図書館の本は、狛江高校の貴重な財産です。後輩のためにも借りた図書は卒業までにきちんと返してください。よろしくね！

2月・3月のカレンダー

グレーは休館

日	月	火	水	木	金	土
		2/1	2	3	4	5 土曜授業 午後閉館
6	7	8	9	10	11 (建国記念の日)	12
13	14	15	16	17	18 入学選抜準備 閉館	19
20	21 入学選抜 (学力) 閉館	22 入学選抜 (採点) 閉館	23 (天皇誕生日)	24 入学選抜 (採点) 閉館	25 入学選抜 (採点) 閉館	26 土曜授業 午後閉館
27	28	3/1	2	3 学年末考査	4 学年末考査	5
6	7 学年末考査	8 学年末考査	9 蔵書点検 閉館	10 蔵書点検 閉館	11 蔵書点検 閉館 卒業式予行	12 卒業式



『公共図書館を育てる』
永田 治樹
(青弓社)

国内外の公共図書館の実例を紹介し、図書館の制度と経営のあり方、AIを用いた資料の管理や利用者支援、オープンライブラリーの取り組みなど、デジタル時代の図書館について語る一冊。



『教養としての茶道』
竹田 理絵
(自由国民社)

グローバルな茶道家である著者が、「茶道の知識」をわかりやすく解説。茶道は総合伝統文化であり、学ぶことで、華道・禅などもわかるようになると著者は言う。茶道 500年の歴史を習得することができる作品。



『図解・天気予報入門』
古川 武彦
大木 勇人
(講談社)

地球温暖化により増え続ける災害に備えるために必要な気象予報を解説。梅雨末期に発生する線状降水帯、温暖化で巨大化する台風、よく出されるようになった特別警報など、天気予報について、数値予報など最新の予報技術も紹介。



『輝山』
澤田 瞳子
(徳間書店)

良質で大量の銀が産出され、世界経済を動かし「銀鉱山の王国」と呼ばれた石見銀山を舞台に、江戸末期、そこで常に危険と隣り合わせで働く名もなき掘子たちの生きざまを描いた作品。



『ヤングケアラー』
毎日新聞取材班
(毎日新聞出版)

全国に3万人以上いるといわれている「ヤングケアラー」。毎日新聞の報道によりその実態が明らかになった。この報道をきっかけに、自治体が調査を始め国も動き出している。新聞労連ジャーナリズム大賞・優秀賞受賞のノンフィクション。



『どうやら僕の日常生活はまちがっている』
岩井 勇氣
(新潮社)

笑みを浮かべながら、ハライチ岩井が平凡な毎日に一撃を食らわせる。初小説も収録し、読めば世界が変わる、エッセイ集。『僕の人生には事件が起きない』も収録。

<リクエストされた図書の中から>



『メタ認知で<学ぶ>力を高める』
三宮 真智子
(北大路書房)

自律的な学習者を目指すために重要なキーワードとなる「メタ認知」について詳説。第1部ではその概念について、第2部ではよりよい学習法や教授法における科学的根拠について解説。生涯学習が求められる現代において、臨機応変に活用できる学習方法を教示する。



『名画で読み解くハプスブルグ家12の物語』
中野 京子
(光文社)

約650年にわたり王朝として君臨したハプスブルグ家。歴史に翻弄され、その家系の運命は激しく揺さぶられ、血の争いに明け暮れた皇帝、一途に愛を貫いた王妃、政治を顧みず錬金術にはまった王、母に見捨てられた英雄の息子、そしてギロチンにかけられた王妃。過酷な運命と立ち向かい、散っていったヒーロー、ヒロインたちを名画に寄り沿い描いた作品。



『この恋は世界でいちばん美しい雨』
宇山 佳祐
(集英社)

建築家・誠と、カフェで働く日菜、鎌倉の海辺の街で二人で暮らす。いつか日菜に「夢の家」を建ててあげたいと願う誠だが、二人は事故で瀕死の重傷を負う。「案内人」と名乗る男女の提案によって誠と日菜は二人で二十年の余命を授かり、生き返ることに。しかしそれは、二人にとって苛酷で切ない日々のはじまりだった。

人間とテクノロジーの関係を学ぶ

『インターネットは言葉をどう変えたか』
マカック、ゲレツェン【著】
千葉 敏生【訳】
(フィルム・アート社)

顔文字、絵文字、アスキーアート、スラング、ミーム…気鋭の「インターネット言語学者」が語る言葉とコミュニケーションの現在、ニューヨーク・タイムズほか米メディアでも紹介。

『ロボットと人間 人とはなにか』
石黒 浩
(岩波書店)

ロボット学の世界的第一人者である著者が、最新の研究をもとに、人間にとって、自律、心、存在、対話、体、進化、生命などは何かを問いかけ、ロボットを研究することは、人間を深く知ることであり、人と関わるロボットがますます身近になる今こそ読んでおきたい一冊。